

原発はいらない！

もちろん

「核のゴミ」貯蔵施設も

祝島の対岸にある上関原発予定地

青い海、青い空、自然豊かな瀬戸内海。

かみのせき

山口県上関町に、使用済み核燃料の中間貯蔵施設が建てられようとしています。

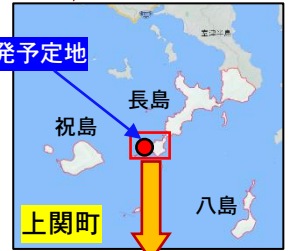
この計画を止めるために、あなたも「反対」の声を上げていただけませんか。



配布者

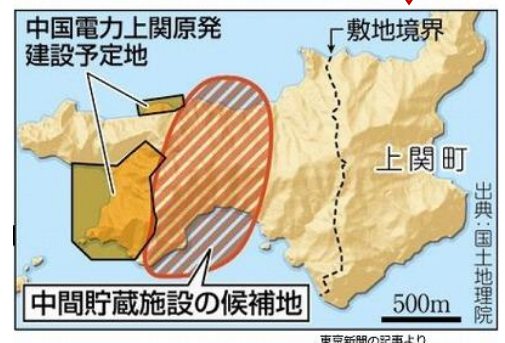
◎山口県上関町について

上関町は山口県の南東部、瀬戸内海に突き出した室津半島の先端部と、長島・祝島・八島などの島々からなり、「奇跡の海」と呼ばれる美しい海に囲まれた自然豊かな町です。古くから海上交通の要衝として栄え、江戸時代には、北前船や朝鮮通信使などの寄港地にもなっていました。現在の人口は約 2300 人。少子高齢化と人口減少が進み、この 40 年間で人口は 3 分の 1 に減り、高齢化率は中国地方で最も高くなっています。



◎「上関原発」、そして「中間貯蔵施設」の建設計画

上関町で原発建設計画が浮上したのは 1982 年 6 月。以降、町の住民は原発計画に対する推進・反対に二分され、激しく対立してきました。予定地の対岸約 4km に位置する祝島では、多くの島民が 40 年以上にわたり、原発反対運動を続けています。しかし、2001 年に国の電源開発基本計画に組み入れられ、2009 年には中国電力が敷地造成・埋め立て工事に着手しました。しかし、



祝島を中心とした反対住民の体を張った抗議行動により、埋め立て工事が進まない中、東日本大震災が発生、福島第一原発の事故を受け工事がストップし、現在に至っています。

上関原発は当分無理だろうという雰囲気になり、当時の柏原町長も原発に頼らない町づくりを目指したので、住民の対立も徐々に和らいでいきました。しかし一方で、中国電力は、その後も原発予定地に続く道路の拡幅工事などを進めていました。2022 年 9 月に柏原町長が病気のため辞職、選挙で当選した西町長は、原発関連の交付金に代わる財源確保のため、2023 年 2 月に西村経済産業相や中国電力に、原発事業推進と財政支援を求めました。2023 年 8 月、中国電力が関西電力と共同で、使用済み核燃料の中間貯蔵施設を建設する計画を上関町に提案。西町長は、そのわずか 16 日後に、建設のための調査受け入れを表明しました。上関町や周辺自治体の住民にとっては、まさに寝耳に水。中間貯蔵施設がどういうものなのか、よくわからないまま、計画が進められようとしています。

◎上関町に原発や「核のゴミ」捨て場を建てさせないよう 皆様のご支援・ご協力をお願いします

このまま計画が進めば、豊かな自然に恵まれたこの地域が、危険な「核のゴミ」と隣り合わせの生活を永遠に強いられることとなります。この計画を白紙撤回させるため、皆様のご協力をお願いします。小さな声も集まれば大きな力になります。署名活動への協力、SNS での発信、ご友人への呼びかけ、新聞への投稿、地元議員への要請など、ご自身の可能な範囲でこの計画に反対の声を上げていただけないでしょうか。よろしくをお願いします。

◎この問題に関する最新情報など、詳細は下記のサイトをご覧ください。

「はっぴーあいらんど祝島」 <https://happy-island.apage.jp/> ここからアクセスできます→

